

中子バリ取り自動化

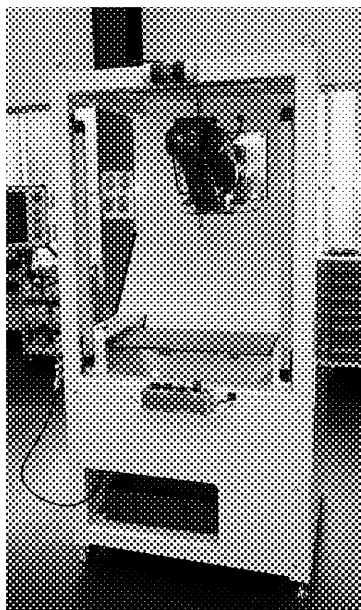
松下工業ロボパッケージ開発

【浜松】松下工業（静岡県磐田市、松下隆彦社長）は、鋳物に中空部分を作る砂型「中子」用のバリ取りロボットシステムのパッケージ製品を開発した。30日に市場投入する。必要な装備一式を筐体内に収めた。中子メーカーである自社の自動化ノウハウを活用した。消費税抜きの価格は仕様で異なり、1000万～1200万円。主に自動化が進んでいない中小企業に、省人化やサイクルタイム削減などの導入効果を訴求し、初年度10台の販売を目指す。

新開発の「中子バリ取り、工具回転用のモーターロボット（NBR）」は、産業用ロボットや中子のバリを取るダイヤモンドヤス

上位仕様2機種は付

8kgモデルを選択す



新開発のロボパッケージは必要な装備を筐体内に収めた

る。
本体のサイズは縦・

横ともに1000mm×高さ2050mm。加工対象物（ワーク）のサイズは最大で縦300mm×横450mm×高さ300mmを想定する。バリ取り後に発生する砂は外に漏れない構造とした。

松下工業は自社技術を生かし、中子の製造台活用するほか、SI

er事業の拠点である富里工場（静岡県磐田市）に常設する。今後NBRはラインアップの拡充や、中子以外のワークへの転用も模索する方針だ。